加賀ふるさと検定

加賀市歴史文化学習帳Ⅳ

地図・年表模擬テスト編

加賀市をもっと知り もっと好きになる！

めざせ！加賀ものしり博士

未来へと受け継がれる素晴らしい加賀市の文化遺産。
ふるさとを深く知ることで、いつもの見慣れた景色もひと味もふた味も
違って見えてくる。

商子（しょうこ）ちゃん

文化庁 AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS
平成26年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした地域活性化事業）

地図・年表
模擬テスト編

加賀ふるさと検定

加賀市
歴史文化
学習帳Ⅳ

加賀市文化財総合活用事業実行委員会
加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会

目　次

地図編

加賀市全域 ……4
山代・片山津 ……6
山中・大聖寺 ……7
橋立・動橋 ……8

年表編

加賀市年表 ……10

模擬テスト

初　級 ……16
上　級 ……23
解　答 ……30

［凡　例］

①本書は、平成 20 年 3 月に加賀市教育委員会が作成した『加賀市歴史文化基本構想』の普及版として、文化庁の「文化遺産を活かした地域活性化事業」の助成を受けて作成したもので、加賀ふるさと検定のテキストにも活用するものである。

②本書は、第 1 部「歴史編」、第 2 部「自然・民俗・文化財編」、第 3 部「産業・人物編」、第 4 部「地図・年表・模擬テスト編」の 4 分冊となっており、4 冊全体で加賀市の歴史・自然・産業などを通覧することができる。また、本書全体の監修は山口隆治、伊林永幸、薮下昇一がおこなった。

③本書の「地図」は、利用者が学習する過程のなかで、遺跡や公共施設、企業などの所在地を書き込んでいただくために白地図に近いものとしている。

④本書の「年表」は、加賀市の主要な歴史的事項のみを掲載したものであり、詳細な年表については『加賀市史通史（下巻）』や『大聖寺町史』を参照願いたい。

⑤本書の「模擬テスト」は、問題作成委員（山口隆治、伊林永幸、薮下昇一、竹本利夫、西島明正、篠原隆一、見附裕史）が作成した約 800 問の中から、初級・上級それぞれ 60 問を選定し掲載した。
なお、初級問題は基本的には学習帳に記述されている基礎的事項を、上級問題については専門的な事項を問う内容を中心としているが、実際の検定試験においては、初級試験であっても上級向けの問題が含まれていたり、逆に上級試験において初級向けの問題が含まれる場合がある。

[地図編]

片山津I.C
日本海
北陸自動車道
汐見橋詰
豊平橋詰
尼御前岬
漁港
加佐ノ岬
橋立
尼御前S.A
篠原北
篠原町
片山津中学校
金明小学校
橋立小中学校
小塩
深田町
小塩辻町
宮地町
宮地町南
小塩辻南
潟津町
片山津東口
片山津小学校
黒崎町
宮町
黒崎小学校
高尾町北
山田町
高尾町
ときわ台
中央公園口
作見町
作見小学校
作見町
松が丘
片野海岸
片野鴨池
畑町北
加賀温泉駅
敷地東
加賀温泉駅西
加賀温泉駅東口
小菅波町
敷地南
鴨池口
錦城東小学校
大聖寺下福田町
錦城小学校
加茂町
大聖寺警察署
曽生
下河崎町
加茂
大聖寺三ツ町
岡町
南郷町
南郷小学校
中代南
中代町
大聖寺上木町
大聖寺地方町
錦城中学校
大聖寺駅
黒瀬
黒瀬町
塩屋海岸
大聖寺瀬越町
三木
緑丘小学校
三木町
三木小学校
曽宇町
花房
保賀町
保賀橋詰
山代小学校
鹿島の森
加賀I.C
吉崎町
305
熊坂町
熊坂
細坪町
永井町
奥谷町
三谷小学校
河南トンネル
日谷町
別所町
曽宇町
森下町
河南
河南町
河南小学校
中田町
長谷田町
364
上原町
山中中学校
山中小
菅

加賀市全域

小松市
加賀市
片山津I.C
新保町北
新保
矢崎町
湖北小学校
波平橋詰
柴山町
柴山潟
東潟駅
駅前
JR北陸本線
矢田野
二ッ梨
瀬津町
片山津温泉口
片山津小学校
中津町
合河町
片山津町
動橋小学校
動橋駅
動橋保育所前
分校小学校
箱宮町
箱宮町
東和中学校
作見町
動橋町
分校町
分校
加賀市消防本部
加賀温泉駅東口
動橋南
槻井
庄町
松山
庄小学校
8
松山町
加茂町
栄谷町
清水町
狐山古墳
加茂
西島
丸山古墳
勅使小学校
勅使町
中代町
上野町
山代中学校
法皇山横穴古墳
山代小学校
横北町
水田丸町
東谷口小学校
別所町
柏野町
西南小学校
塔尾町
長谷田町
364
中津原町
上原町
塚谷西
四十九院町
滝町
四十九院トンネル
山中中学校
山中小学校
山中温泉
下谷町
菅谷小学校

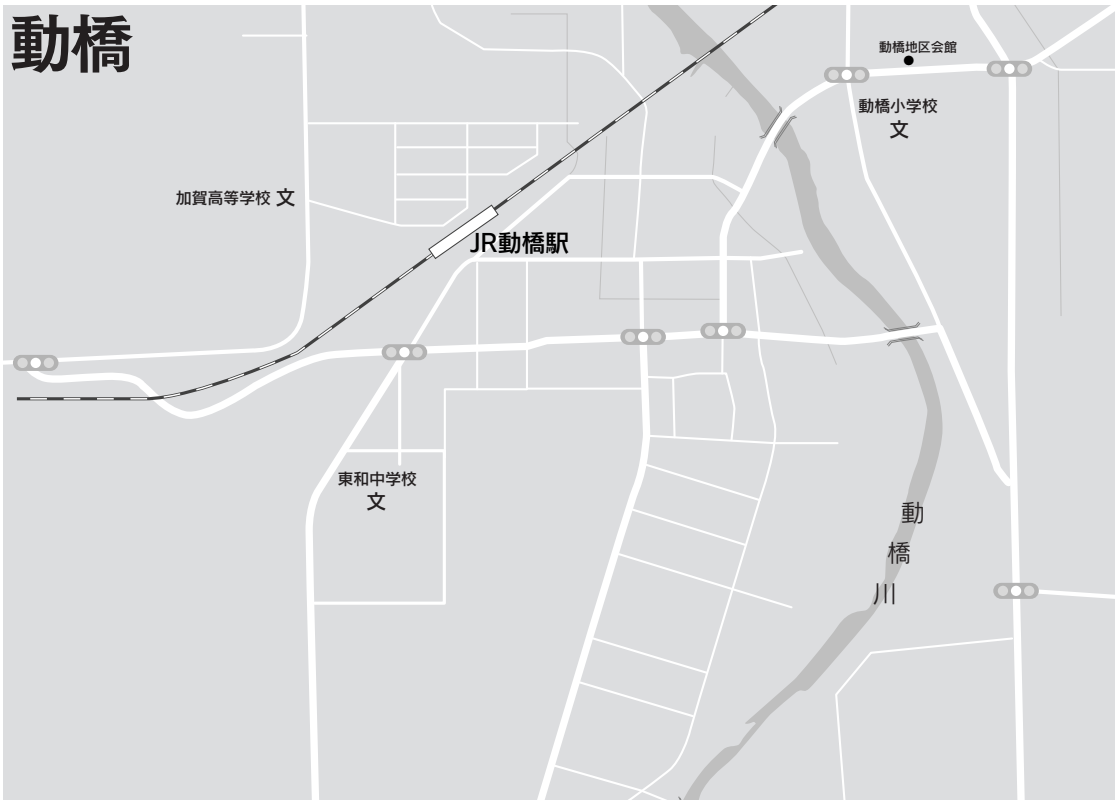
山代
山代小学校
山代地区会館
真菰ヶ池
古総湯
総湯

片山津
浮御堂
湯の元公園
総湯
片山津地区会館
検番

山中
医王寺
364
こおろぎ橋
山中温泉支所
ゆげ街道
遊歩道
菊の湯 女湯
菊の湯 男湯
山中
文化会館
山中図書館
あやとりはし
鶴仙渓遊歩道
四十九院
トンネル

大聖寺
菅生石部神社
大聖寺川(新川)
文 錦城東小学校
大聖寺高等学校 文
江沼神社
錦城山
錦城小学校
文
加賀市民病院
大聖寺地区会館
旧
大
聖
寺川
郵便局
〒
警察署
中央図書館
加賀市役所
古九谷の杜
加賀商工会議所
山ノ下寺院群
JR大聖寺駅
8
大聖寺実業高等学校
文

橋立
尼御前岬
日本海
天崎
尼御前SA
●漁協加賀支所
加佐ノ岬
北前船の里資料館●
●橋立地区会館
田尻川
文
橋立小中学校
北陸自動車道


動橋
動橋地区会館
動橋小学校
文
加賀高等学校 文
JR動橋駅
東和中学校
文
動
橋
川

[年表編]

加賀市年表

約1万3千年前　旧石器時代
宮地向山遺跡。
約9千年前　縄文時代
橋立大野山遺跡、藤の木遺跡、柴山水底貝塚、柴山貝塚、横北遺跡など。
約2千3百年前　弥生時代
柴山出村遺跡、猫橋遺跡など。
3世紀後半～7世紀　古墳時代
片山津玉造遺跡、分校松山古墳群、黒瀬・南郷古墳群、狐山古墳、法皇山横穴群、大菅波A遺跡、分校古窯跡群など。

570	欽明31	族長道君が大王と詐称し、高句麗の使節の貢物を奪ったことが江沼臣裾代の訴えで露見。
650～		この頃、宮地、弓波、保賀などに寺が建立される。
701	大宝1	大宝律令により江沼地方は「越前国江沼郡」となる。
731	天平3	「越前国正税帳」に江沼郡の名が登場。
740	天平12	この年、「江沼郡山背郷計帳」に江沼臣族乎加非、同忍人の戸がみえる。
755	天平勝宝7	この年、橘大夫人、東大寺に江沼郡幡生荘を施入。
762	天平宝字6	江沼郡山背郷50戸を岡寺（奈良県）に施入。
778	宝亀9	宝亀7年に江沼・加賀郡に漂着した渤海の溺死者30人を当郡で埋葬。
823	弘仁14	越前国の加賀・江沼２郡を割いて加賀国を置く。江沼郡の北半分を能美郡とする。
935	承平5	倭名類聚鈔（略称「和名抄」）に長江・忌浪・山背・竹原・額田・菅波・八田・三枝など８郷がみえる。
1090	寛治4	加賀守藤原為房が加賀国府から淡津泊を経て敦賀に向かう。
1163	長寛1	『白山之記』に、白山五院として極楽寺・小野坂寺・大聖寺・柏野寺・温泉寺の5ヶ寺が見える。
1177	安元3	延暦寺・白山宮の衆徒、加賀守藤原師高の処罰を求めて強訴（安元事件）
1183	寿永2	木曽義仲追討の平家軍、加賀に入る。源氏軍、平家軍を篠原に破って南下する。
1221	承久3	承久の乱に際し、名越朝時らの幕府軍が加賀を通過し、京方の林家綱ら敗北する。
1273	文永10	熊坂庄の領家徳大寺家と地頭大見実泰との間で続いていた争論が下地中分となる。

1291	正応4	時宗２世遊行上人真教、加賀へ遊行する。
1333	元弘3	福田庄菅浪郷総領地狩野頼広などが足利高氏方に参陣する。
1335	建武2	敷地・上木・山岸などの狩野氏の一党が名越時兼を大聖寺にて破る。
1336	建武3	畑時能・敷地伊豆守・上木平九郎ら越前細呂木辺に城を構えて、大聖寺城の津葉五郎清文を破る。
1341	暦応4	畑時能、越前鷹巣城で戦い、大野で敗死する。
1419	応永26	江沼郡熊坂庄願成寺に親鸞聖人絵伝が授与される。
1471	文明3	本願寺８世蓮如、吉崎御坊に道場を開く。
1475	文明7	蓮如、吉崎を退去する。
1486	文明18	この頃、蓮如の４男蓮誓、山田光教寺に入る。
1488	長亨2	一向一揆のため、守護富樫政親の高尾城が陥落する。
1506	永正3	一揆勢、朝倉軍に九頭竜川にて敗れる。（永正一揆）
1531	享禄4	加州三ヶ寺が超勝寺派に敗れる。（享禄の錯乱）
1546	天文15	一嶋新兵衛ら徳政に反対して江沼郡に討ち入り敗北する。（江沼郡錯乱）
1555	弘治1	朝倉宗滴、江沼郡へ侵入。一揆軍敗れる。
1575	天正3	織田信長、江沼・能美を攻略。戸次右近を大聖寺城に配置する。
1580	天正8	拝郷五左衛門、大聖寺城に入る。
1583	天正11	溝口秀勝、大聖寺城主となる。
1598	慶長3	山口玄蕃宗永、大聖寺城主となる。
1600	慶長5	山口宗永、前田利長に滅ぼされる。
1615	元和1	一国一城令により、大聖寺城は廃城となる。
1639	寛永16	前田利治、大聖寺藩7万石の初代藩主となる。
1653	承永2	利治、家臣の一部を宗藩に返す。
1655	明暦1	田村権左右衛門、九谷宮に花瓶を奉納する。
1660	万治3	利治死去し、二代利明襲封する。越中新川郡7ヶ村と能美郡6ヶ村を交換。
1662	寛文2	二代利明、改作法を実施する。
1665	寛文5	市の瀬用水完成する。
1671	寛文11	大洪水起きる。（翌年も洪水となる）
1673	延宝1	大聖寺川改修に着手する。
1676	延宝4	河北郡二俣村に中田村の五郎兵衛を派遣して紙漉きを伝承させる。
1678	延宝6	片野大池の掘削工事完成する。
1680	延宝8	矢田野用水完成する。
1682	天和2	竜骨車を大坂より輸入する。
1689	元禄2	芭蕉、山中、大聖寺に立ち寄る。
1691	元禄4	利直、幕府の奥詰となる。
1692	元禄5	利明死去し、三代利直襲封する。利直の弟利昌、一万石を与えられる。
1693	元禄6	藩邸を焼失する。
1695	元禄8	幕府から江戸四谷などの犬小屋建設を命ぜられる。
1701	元禄14	神谷内膳守政致仕（引退）する。大洪水起こる。

1704	宝永1	利直、初入部する。藩邸竣工する。
1709	宝永6	利昌、大和柳本藩主織田秀親殺害により切腹を命ぜられる。
		利直、奥詰を免ぜられる。長流亭竣工する。
1710	宝永7	村井主殿が切腹を命ぜられる。利直、死去する。
		江戸城芝口御普請御手伝を命ぜられる。
1711	宝永8	四代利章襲封する。半知借上行なわれる。
1712	正徳2	凶作で、領内百姓の大一揆が発生する。(正徳の大一揆)
1713	正徳3	神谷守政、金沢に召還される。
1729	享保14	大聖寺で大火が起こる。(400戸焼失)
1732	享保17	江戸城虎ノ門御普請御手伝を命ぜられる。
1736	享保21	銭札相場に関し、大聖寺町人、騒擾を起こす。
1737	元文2	利章、死去し、五代利道襲封する。
1744	延亨1	この頃、庄の沢屋仁左衛門が大聖寺絹を始める。
1751	宝暦1	三河吉田橋の架け替えを命ぜられる。
1753	宝暦3	同再工事を命ぜられる。(翌年竣工するも、責任者が処分される。)
1756	宝暦6	弓波村で百姓一揆起こる。
1760	宝暦10	大聖寺大火(1,252戸焼失)
1763	宝暦13	領内富民に御用銀を課す。
1768	明和5	越前吉崎村に一揆起こり、吉崎村民、塩屋浦で暴行を働く。
1769	明和6	江戸城西ノ丸普請御手伝を命ぜらる。
1773	安永2	大洪水起こる。
1778	安永7	六代利精、襲封する。
1780	安永9	百姓一揆事前に防止する。(毛谷村一件)
1782	天明2	利精隠居し、七代利物襲封する。
1784	天明4	大凶作、餓死者が出る。
1788	天明8	利物死去し、八代利考襲封する。
1793	寛政5	海防始まる。
1805	文化2	利考死去する。
1803	享和3	伊能忠敬、測量のために大聖寺に入る。
1806	文化3	九代利之襲封する。
1821	文政4	十万石に高直しする。
1823	文政6	吉田屋伝右衛門、九谷窯を再興する。
1824	文政7	植物方を設置する。
1826	文政9	塩屋・橋立・日末の３ヶ所に御台場(砲台設置場所)を築く。
1836	天保7	利之死去する。
1837	天保8	十代利極襲封する。
1838	天保9	利極死去し、十一代利平襲封する。
1840	天保11	利平、学問所を開く。
1844	弘化1	『加賀江沼志稿』成る。

1845	弘化2	軍制改革に着手する。
1849	嘉永2	利平死去し、十二代利義襲封する。
1852	嘉永5	大砲を鋳造する。
1854	安政1	学問所を改め「時習館」とする。
1855	安政2	利義死去し、十三代利行も死去する。(死去後襲封) 十四代利鬯、襲封する。
1857	安政4	有備館開校する。
1862	文久2	諸士の建議を徴する。
1864	元治1	水戸浪士に対する防衛のため越前に出兵する。
1867	慶応3	利鬯禁裏守護のため上洛し、藩兵京都御所の朔平門を警備する。
1868	明治1	北越戦争に参戦するため、越後に出兵する。
1869	明治2	版籍奉還され、前田利鬯、大聖寺知藩事となる。 パトロン事件起こる。
1871	明治4	廃藩置県となり大聖寺県が成立する。大聖寺県が金沢県に合併される。 みの虫騒動が起こる。
1872	明治5	金沢県を石川県と改称する。江沼郡を第19区から22区とし、戸長、副戸長などを置く。
1876	明治9	江沼郡を第13大区とし、5小区に分ける。
1878	明治11	江沼郡役所が置かれ、郡長を置く。23の戸長役場が置かれる。 大聖寺町にて鉛筆製造が開始される。 明治天皇、北陸行幸で動橋・大聖寺にて御休憩される。
1879	明治12	国立第八十四銀行が開業する。九谷陶器会社が創立する。 大聖寺博覧会が開かれる。
1880	明治13	石川県金沢病院大聖寺分病院(後の江沼病院)が設立される。
1882	明治15	製糸伝習所がつくられる。
1883	明治16	大聖寺大火が起こる。(425戸焼失)
1888	明治21	大聖寺織物業組合が設立される。
1889	明治22	町村制が施行される。
1890	明治23	士族屯田兵、北海道に渡る。(郡中48名)
1891	明治24	吉崎を瀬越村から三木村に編入する。
1896	明治29	柴山を篠原村から月津村へ編入する。
1897	明治30	福井～小松間、鉄道が開通する。大聖寺駅・動橋駅が開設する。
1899	明治32	山中馬車鉄道株式会社が設立される。
1900	明治33	山中～大聖寺間、馬車鉄道が開通する。
1910	明治43	動橋～山代間、馬車鉄道開通する。
1911	明治44	江沼郡海岸部の国有地に砂防工事が行なわれる。 大聖寺川水力発電株式会社が設立される。
1913	大正2	山中村・山代村、町制を施く。山中～大聖寺間、電車が開通する。
1914	大正3	動橋～片山津間、馬車鉄道が開通する。

1915	大正4	山代～動橋間、電車が開通する。
1921	大正10	動橋川水力発電株式会社が設立される。
1922	大正11	片山津～動橋間、電車が開通する。
1923	大正12	郡制が廃止される。
1927	昭和2	八十四銀行が倒産する。
1930	昭和5	橋立村と黒崎村が合併し、橋立村となる。
1934	昭和9	大聖寺で大火が起こる。(9・9・9の大火)
1935	昭和10	福田村が大聖寺町に編入される。
1936	昭和11	山代町にて大火が起こる。
1942	昭和17	庄村が山代町に編入される。作見村と塩津村が合併し片山津町となる。
1947	昭和22	新制中学校が創設される。
1948	昭和23	福井大地震が起きる。
1952	昭和27	橋立村が橋立町となる。
1954	昭和29	加賀三湖干拓事業始まる。瀬越村が大聖寺町に編入される。 篠原村が片山津町に編入される。 動橋町と分校村が合併し、動橋町となる。
1955	昭和30	山中町、河南村、西谷村、東谷奥村の４町村が合併し、山中町となる。 山代町、勅使町、東谷口村が合併し、山代町となる。
1958	昭和33	江沼郡９ヶ町村が合併し、加賀市(旧加賀市)が発足する。
1960	昭和35	河南村の荒木・河南・別所の3地区が加賀市へ編入する。 加賀市庁舎が落成する。
1963	昭和38	豪雪となる。
1964	昭和39	国道8号線が開通する。
1965	昭和40	片山津～動橋間の電車(加南線)が廃止される。我谷ダムが完成する。
1968	昭和43	市内海岸線が「越前・加賀海岸国定公園」に指定される。
1969	昭和44	片山津温泉で大火が起こる。加賀商工会議所が設立される。
1970	昭和45	作見駅を加賀温泉駅として整備し、開業する。
1971	昭和46	北陸鉄道加南線(山中線・山代線)の全線が廃止される。
1973	昭和48	北陸自動車道、小松～丸岡間が開通する。
1979	昭和54	加賀市文化会館が開館する。加賀市中央公園(山田町)の一部供用開始となる。
1986	昭和61	大聖寺川の河川改修工事が完成する。
1993	平成5	片野鴨池がラムサール条約登録湿地となる。
1997	平成9	ロシアタンカー「ナホトカ号」重油流出事故が起きる。
2000	平成12	地域周遊バス「CANBUS」が運行開始する。
2005	平成17	加賀市(旧)と山中町が合併し、新生「加賀市」が誕生する。
2006	平成18	九谷ダムが完成する。

[模擬テスト]

初級編・上級編
解答

初級編

〈全 60 問〉

古代

1　加賀市には、縄文時代から、弥生、古墳時代までの古代遺跡が、これまでに、おおよそ(　　)か所確認されている。
①150　②350　③650　④850

2　加賀市の二子塚町の(　　)古墳は、国の史跡に指定されている。
①猿山　②猫山　③犬山　④狐山

3　勅使町の国指定史跡(　　)横穴群は、当市における古墳時代を代表する遺跡で、200基余りの横穴があると考えられている。
①勅使山　②天皇山　③法皇山　④皇子(おうじ)山

4　平安時代、白山五院の一つであった(　　)は、現在の錦城山から荻生町にかけての山の上に在ったと考えられている。
①実性院　②全昌寺　③極楽寺　④大聖寺

中世

5　加賀市手塚町には、平家の武将(　　)の首を洗ったと伝える「首洗池」がある。
①木曽義仲　②斎藤実盛　③源　義経　④平　時忠

6　文明3年、本願寺第8世(　　)は、吉崎に道場をつくり、当地方に浄土真宗を広めた。
①親鸞　②空海　③日蓮　④蓮如

近世

7　大聖寺城主(　　)は、慶長3年、新潟の新発田藩の初代藩主となった。このとき、多くの家臣や農民を新発田に移住させた。
①山口玄蕃　②拝郷家嘉　③前田利治　④溝口秀勝

8　関ケ原の戦いの時、大聖寺城主(　　)は西軍につき、東軍の金沢城主前田利長との間で、錦城山を舞台に激しい戦いをした。
①溝口秀勝　②山口玄蕃　③丹羽長重　④神谷内膳

9　大聖寺藩の菩提寺である(　　)の裏山には、大聖寺藩歴代藩主の墓が建(た)っている。
①願成寺　②全昌寺　③慶徳寺　④実性院

10　大聖寺藩は城を築くことが認められず、現在の(　　)が建っている場所あたりに藩邸屋敷を構えた。
①錦城小学校　②大聖寺地区会館　③加賀市立中央図書館　④加賀市役所

11　大聖寺の江沼神社境内に建つ(　　)は、大聖寺藩3代藩主前田利直(としなお)の休息所として建てられたもので、国の重要有形文化財に指定されている。
①無限庵　②成巽閣　③竹径館　④長流亭

12　江戸時代、大聖寺藩領内の(　　)村には、42名に及ぶ北前船の船主や船頭がいて、大正期には「日本一の富豪村」として全国に紹介された。
①橋立　②塩浜　③篠原　④伊切

13　俳人松尾芭蕉は『奥の細道』の行脚(あんぎゃ)の途中、加賀においては、大聖寺の全昌寺と(　　)温泉に逗留した。
①片山津　②山代　③山中　④粟津

近現代

14　明治元年、大聖寺藩は官軍から弾薬の調達を命じられ、その資金不足を補うために(　　)のほら穴で贋金をつくった。
①法皇山　②鞍掛山　③錦城山　④大日山

15　明治4年、大聖寺藩領内で農民一揆が起こった。この一揆は、農民たちが身に着けていた着物の姿から、(　　)一揆と呼ばれている。
①くまたか　②みのむし　③いのしし　④けむし

16　明治10年、大聖寺松島町で、日本でもっとも早い時期に、(　　)を工業生産する会社がつくられた。
①マッチ　②石鹸　③鉛筆　④自転車

17　江戸時代末期、木地ひき職人の家に生まれた新家熊吉は、海外旅行の際に見た自転車に魅かれ、自転車の(　　)を製造する会社を興した。
①リム　②サドル　③ベル　④タイヤ

18　明治24年、ロシアの皇太子ニコライが暴漢に襲われたとき、犯人を組み伏せ、ニコライの命を救った江沼郡出身の北ヶ市市太郎の職業は(　　)である。
①巡査　②車夫　③大工　④記者

19　明治11年、主に橋立や瀬越の北前船主らの出資により、大聖寺に(　　)銀行が設立された。
①七十七　②六十四　③百五　④八十四

自然

20　加賀市の面積は約(　　)㎢で、このうちおよそ７割が山林で占められている。
①286　②306　③422　④546

21　加賀市の年間平均気温はおよそ(　　)である。
①10度　②13度　③16度　④20度

22　加賀市で最も高い山は、小松市との境界線上に位置する(　　)で、1,368mの高さをもつ。
①大日山　②富士写が岳　③鞍掛山　④刈安山

23　大聖寺川の長さは、およそ(　　)㎞で、県内では手取川・梯川に次ぐ長さである。
①28　②38　③48　④58

24　片野鴨池は、平成5年に(　　)条約の登録湿地に認定された。
①ラムサール　②ヨハネスバーグ　③チューリッヒ　④サンフランシスコ

25　加賀市の(　　)には、アカテガニやツルガマイマイなどが生息している。
①鴨池　②柴山潟　③鹿島の森　④加佐ノ岬

民俗

26　昭和30年頃まで各家庭で使われた(　　)は、麻で作られた網目状の布で、夏の夜、

寝室に吊り下げて寝ることで、蚊に刺されず重宝された。
①蚊幕　②蚊取　③蚊帳　④蚊除け

27　大聖寺の(　　)では、毎年4月の第2土曜、日曜に、「桜まつり」と称する、全町あげての盛大な祭りが行なわれている。
①菅生石部神社　②江沼神社　③春日神社　④加賀神明宮

28　毎年、9月22日、23日の2日間、山中温泉では湯女みこしや大獅子みこしなどが繰り出す(　　)祭りが開かれる。
①くるくる　②いけいけ　③こいこい　④どんどん

29　加賀地方では、(　　)の葉に酢飯をのせて、そこにサバやマスの魚などをのせて押しをして食べる郷土料理がある。
①朴　②イチジク　③柿　④笹

30　加賀地方で広く使われてきた方言(　　)は、おもに「利口な」「気のきいた」「巧みな」という意味で使われてきた。
①べんこな　②りくつな　③てんぽな　④あてがい

文化財

31　篠原町には、竹の枝や幹の色が、金色と緑色の2色が交互になった(　　)と呼ばれる、国の天然記念物に指定されている竹がある。
①2色竹　②金明竹　③銀明竹　③金緑竹

32　山中温泉(　　)町の菅原神社には、最大幹周り5.7メートルの大スギがあり、昭和22年に昭和天皇が立ち寄られたために「天覧の大杉」とも呼ばれている。
①菅谷　②栢野(かやの)　③大土　④杉水

33　加賀市塩屋町の鹿島の森は、標高30メートル、面積は約3haの 陸続きの小島で、暖地性植物を中心とした原生林が残され、現在、(　　)の天然記念物となっている。
①ユネスコ認定　②国指定　③石川県指定　④加賀市指定

34　山代温泉薬王院の後方に立つ鎌倉時代の五輪塔は、音韻学に関する著作を遺した平安時代後期の僧(　　)の供養塔とされている。
①行基　②空海　③明覚　④西行

35　加賀市片野町の鴨池周辺では、江戸時代より(　　)猟という独特の鴨猟が行なわれてきた。
①棒網　②投網　③突網　④坂網

36　大聖寺の刀鍛冶師の家に生まれた(　　)は、1枚の鉄板から金槌を使って精巧な動物や置物を打ち出す鎚起法を考案し世界的に知られた。
①中村秋塘　②佐々木泉景　③山田宗美　④山口梅園

37　「古九谷色絵孔雀図平鉢」は、江戸時代初期につくられたものとされ、古九谷窯を創設するときに指導的役割を果たした後藤才次郎ゆかりの寺である(　　)に所蔵されている。
①医王寺　②本善寺　③願成寺　④薬王院

38　大聖寺の(　　)には、幕末から明治初期にかけてつくられた極彩色の五百羅漢像が完全な形でのこっている。
①実性院　②蓮光寺　③本光寺　④全昌寺

39　加賀市瀬越町の白山神社には、船主や船頭たちが航海安全を祈願して奉納した船絵馬が(　　)点保存されており、一括加賀市の指定文化財となっている。
①18　②25　③38　④53

40　江戸時代における大聖寺出身の儒学者(　　)が著した著作や蔵書143冊は、現在、加賀市が所有し、市の指定文化財となっている。
①田辺明庵　②平井復斎　③東方芝山　④大田錦城

産業

41　加賀市は、北陸最大の(　　)の産地(さんち)となっている。
①ブロッコリー　②きゅうり　③かぼちゃ　④トマト

42　JA加賀では、平成22年から、特産の(　　)を原料とした焼酎を商品化させ、販売している。
①トマト　②カボチャ　③ジャガイモ　④コメ

43　加賀市(　　)町は、江戸時から茶の栽培をおこなっており、近年、この茶葉をつかった「加賀の紅茶」が商品化され話題となっている。
①動橋　②中島　③打越　④柴山

44　山中温泉南町の(　　)街道は、平成15年に観光客などが楽しく散策することができるよう整備されたもので、温泉街の賑わい創出に貢献している。
①ゆのはな　②ゆけむり　③ゆかたべ　④ゆげ

45　昭和56年、加賀市(　　)に工場団地がつくられ、菓子製造会社からプラスチック食器製造会社、機械部品製造会社など16社の企業が進出している。
①勅使町　②別所町　③宇谷町　④分校町

46　昭和40年から42年にかけて、加賀市の(　　)町と山中温泉上原町に漆器団地が造成され、漆器製造にともなう機能的な量産体制が確立された。
①別所町　②荒木町　③大和町　④黒瀬町

人物

47　大聖寺藩初代藩主前田利治は、加賀藩主(　　)の3男である。
①前田利長　②前田利常　③前田綱紀　④前田光高

48　大聖寺藩の最後の藩主前田利鬯は、第(　　)目の藩主となる。
①12代　②14代　③16代　④18代

49　幕末、(　　)は、漢学や洋学・兵学のあらゆる学問に優れ、藩校の充実や藩士の留学に力を注ぎ、大聖寺藩の政局に大きな影響をあたえた。
①大田錦城　②東方芝山　③渡辺卯三郎　④鹿野小四郎

50　加賀市からは、これまでに、農林(のうりん)大臣をつとめた坂田英一と厚生(こうせい)大臣を務めた(　　)の2人の大臣を出している。
①宮永盛雄　②竹田儀一　③本川　進　④辻　政信

51　大聖寺出身の(　　)は、海軍兵学校で学び、日露戦争で活躍し、大正元年に海軍大将となった。
①瓜生外吉　②石川　嶂　③磯村　年　④草鹿竜之介

52　創価学会の2代目会長となった戸田城聖は、現在の加賀市(　　)で生まれ、2歳で北海道にわたった。
①吉崎町　②瀬越町　③片野町　④塩屋町

53　太平洋戦争中、「作戦の神様」と謳われ、『潜行三千里』などの著者で知られた（　　）は、江沼郡今立町の出身である。
①辻　政信　②坂田英一　③竹田儀一　④相川久太郎

54　大聖寺の初代町長（　　）は、学校や道路建設、殖産興業に大きな業績を残し、その石像が大聖寺地区会館前に立てられている。
①前田　幹　②梅田五月　③新家熊吉　④石川　嶂

55　当市出身の中谷宇吉郎博士は（　　）の研究で世界的に知られている。
①半導体　②雪・氷　③アドレナリン　④味の素

56　加賀市大聖寺番場町の「深田久弥山の文化館」は、もと（　　）の建物の一部を利用した展示施設である。
①銀行　②織物会社　③診療所　④印刷会社

57　大聖寺出身の河野安通志は、日本で最初にプロの（　　）チームをつくった創始者である。
①バレーボール　②野球　③サッカー　④バスケット

58　明治10年、飛鳥井清は士族授産のために、旧藩士（　　）を工場長とした鉛筆製造会社をつくった。
①丹羽栄太郎　②野尻自然　③早崎久賀　④柿沢理平

59　橋立の北前船主久保彦兵衛邸の座敷部分は、（　　）の「野村家跡」に移築され、現在、観光客向けに公開されている。
①小松市　②白山市　③金沢市　④野々市市

60　橋立町出身の人間国宝西出大三は、（　　）で活躍したことで知られる。
①ガラス工芸　②截金工芸　③鉄打出し　④木工芸

上級編

〈全 60 問〉

古代

1　市内の「宮地向山遺跡」は当市でもっとも古い旧石器時代の遺跡で、今からおよそ（　　）年以上も前のものとされている。
①5,000　②8,000　③13,000　④20,000

2　市内合河町を流れる八日市川付近で発見された「猫橋遺跡」は北陸の登呂遺跡とも呼ばれ、当市の（　　）時代を代表する遺跡である。
①旧石器　②縄文　③弥生　④古墳

3　白山五院（ごいん）のひとつである「極楽寺」は、当市の（　　）にあったとされる。
①錦城山の頂上　②大聖寺下福田　③大聖寺畑町　④大聖寺荻生町

4　奈良・平安時代、北陸道には「駅」が設置されたが、江沼郡域では、越前から加賀に入ると、先ず（　　）駅、その次に潮津駅に出て、小松の安宅の方に抜けていった。
①荻生　②三木　③朝倉　④吉崎

5　加賀守（かがのかみ）であった（　　）は、寛治（かんじ）4年に加賀国府（こくふ）から淡津泊（あわずのとまり）を中継点として敦賀津（つるが）へ向（む）かった記録が残っている。
①藤原為房　②中院通世　③高辻継長　④園基富

中世

6　中世、江沼郡の福田庄・山代庄本郷・富塚庄などは、京都の（　　）の社領となっていた。
①伏見稲荷社　②北野天満宮　③下賀茂神社　④八坂神社

7　鎌倉新仏教のうち、最初に江沼の地へ進出したのは、一遍智真（いっぺんちしん）が開いた時宗（じしゅう）で、江沼郡では（　　）町にあったとされる西光寺（さいこうじ）がその中心となった。
①橋立　②塩浜　③潮津　④篠原

8　大聖寺の（　　）には、全国でも最も古いとされる応永26年の年号が裏書きされた「親鸞絵伝（しんらんえでん）」が所蔵されている。
①願成寺　②専称寺　③豪摂寺　④本善寺

近世

9　天正11年(1583)、溝口秀勝はおよそ(　　)石の領主として大聖寺城に入った。
①4万4千　②6万5千　③7万2千　④9万4千

10　大聖寺藩祖前田利治の母(　　)は、加賀3代藩主前田利常に嫁入りした2代将軍徳川秀忠の2女珠姫である。
①芳春院　②寿福院　③天徳院　④玉泉院

11　大聖寺藩前田家の菩提寺である実性院の前身は、現在の大聖寺岡町にあったとされる(　　)である。
①宗英寺　②大聖寺　③光栄寺　④徳栄寺

12　大聖寺藩の歴代藩主の中で、42年間という、最も在位期間が長かった藩主は(　　)である。
①3代利直　②4代利章　③5代利道　④6代利精

13　山中温泉や山代温泉は古くより名湯として知られ、文明5年には蓮如が山中温泉に、永禄8年には(　　)が山代温泉に入湯したとの記録がある。
①豊臣秀吉　②明智光秀　③織田信長　④徳川家康

14　大聖寺藩の3代藩主前田利直の弟前田利昌は、上野寛永寺で刃傷におよび(　　)藩の藩主であった織田監物を殺害し切腹となった。
①大和郡山　②大和柳本　③大和高取　④大和柳生

15　大聖寺藩における「十村制度」では、村組を担当した組付十村と、組を持たず、組付十村を監視した(　　)十村がいた。
①肝煎　②長(おとな)　③目付　④頭

16　大聖寺藩の参勤交代の最大のものは、9代利之が文政5年におこなった大名行列で、この時は(　　)人を従えて江戸に向かったという。
①185　②258　③320　④397

17　江戸時代、大聖寺藩領内の中田・長谷田・上原・塚谷などでは、和紙を製造していたことから、(　　)と呼ばれていた。
①紙屋台　②紙漉村　③紙屋谷　④製紙村

18　文政年間に、吉田屋伝右衛門が、廃絶（はいぜつ）していた九谷焼を再興（さいこう）したのは、彼が（　　）歳のときのことである。
①38　②48　③62　④72

近代

19　大聖寺藩は、明治元年、長崎浦上のキリスト教信徒50人を預かり、仏教に改宗させようとしたが、このうち5人が病死し、残り45人のうち、改宗したのは（　　）人であったと記録されている。
①8　②18　③28　④41

20　明治4年の廃藩置県により大聖寺県が誕生したが、その僅か4ヶ月後には（　　）県に吸収合併となった。
①金沢県　②石川県　③福井県　④美川県

21　明治10年、大聖寺に鉛筆製造をおこなう会社がつくられたきっかけは、山中温泉の（　　）で良質の黒鉛が発見されたためである。
①九谷　②真砂　③杉水　④片谷

22　片山津温泉は明治15年6月に、石川郡観音堂村の井戸掘り名人（　　）を招き、特殊工法で泉源を掘り、湯量を確保することに成功した。
①林　仁平　②森　仁平　③坂本仁平　④山口仁平

23　明治24年、ロシア皇太子ニコライは、日本を訪問中、警備にあたっていた巡査（　　）に突然切りつけられたが、江沼郡出身の車夫北ヶ市市太郎らに救われ危うく命拾いをした。
①津田三吉　②津田三之助　③津田三蔵　④津田三郎

24　江沼郡においては、男子のための大聖寺中学校が設立されたのが大正12年のことであるが、郡立実科女学校（のちの大聖寺高等女学校）が設立されたのは（　　）のことである。
①明治44年　②大正14年　③昭和8年　④昭和23年

自然

25　およそ6,000年前、当地はもともと入江や浅い海でしたが、その後、大聖寺川や動橋川から運ばれてきた土砂が堆積して平野となったもので、こうしたところは（　　）

平野と呼ばれている。
①堆積　②沖積　③海跡　④湖跡

26　昭和29年、国営加賀三湖干拓事業により、柴山潟の一部が埋められ水田となった。これにより、潟の面積は、約(　　)㎢から1.7㎢と縮小した。
①2.3　②3.6　③4.8　④5.4

27　日本列島の地層で最も古いとされている飛騨変成岩の地層が、加賀市の(　　)付近に局部的に見られる。
①尼御前岬　②錦城山(大聖寺)　③下福田町　④九谷地区

28　平成初年まで、国蝶となっている(　　)が加賀市内で確認されていたが、近年はまったく見られなくなっている。
①オオムラサキ　②キアゲハ　③クロアゲハ　④モンシロチョウ

民俗

29　加賀市の農村部の民家では、広い居間を「オエ」、仏壇を置いた座敷を「デイ」、寝室として使った部屋を「ナンド」、便所を(　　)などと称していた。
①センチャ　②カワヤ　③シモノマ　④フジョウマ

30　山代温泉菖蒲湯祭りで引き回す「菖蒲御輿」の総重量はおよそ(　　)kgあるといわれている。
①250　②350　③450　④550

31　動橋町の振橋神社には、昔、村内に毒蛇がいて、娘たちを奪っていくことがあり、住民を苦しめていたが、(　　)が退治したという伝承がある。
①オオナムチノカミ　②オオヒコノミコト　③イザナミノミコト　④スサノオノミコト

32　加賀地方では、コンニャクを白ゴマと白味噌(しろみそ)で味付けした(　　)と呼ぶ精進料理(しょうじんりょうり)の一種が伝えられてきた。
①エビス　②キシズ　③ジブニ　④ダダミ

33　加賀地方で使われてきた方言(ほうげん)「どくしょな」とは、主に(　　)という意味で使われていた。
①薄情(はくじょう)な　②ものしり　③利口な　④素晴らしい

文化財

34　片山津町の玉造遺跡からは、管玉や勾玉などの玉類を製造していたが、ここで使われた原石の多くは(　　)の上流で採取したものを使ったと考えられている。
①手取川　②動橋川　③糸魚川　④九頭龍川

35　勅使町の国指定史跡「法皇山横穴群」には、およそ80基の横穴が確認されているが、これらの横穴の奥には遺体を安置するための(　　)と呼ぶ部屋がある。
①棺室　②玄室　③玉室　④天室

36　大聖寺の西端にある錦城山付近にあったとされる大聖寺城が歴史に登場するのは(　　)が初見である。
①源平盛衰記　②太平記　③信長公記　④平家物語

37　山代温泉薬王院が所蔵する「木造十一面観音立像」は、もと白山五院の一つ、大聖寺の後身とされる(　　)の本尊として祀られていたものと伝える。
①加賀神明宮　②慈光院　③寿福院　④極楽寺

38　菅生石部神社が所蔵する国指定文化財「蒔絵角赤手筥」は、(　　)の2女である珠姫が輿入れした際に持参した調度品の一つと言われている。
①前田利長　②豊臣秀吉　③柴田勝家　③徳川秀忠

39　大聖寺関所は、明治2年の廃藩置県の際に廃止され、関所門は家老生駒一彦の口利きで(　　)の境内に移され、現在に至っている。
①本光寺　②実性院　③全昌寺　④宗寿寺

40　市指定の文化財である菅生石部神社の「神門」は、昭和5年の修理で銅板葺きとなり現在に至っているが、それまでは(　　)葺きであった。
①茅(かや)　②小端(こば)　③柿(こけら)　④桟瓦(さんがわら)

41　山中温泉下谷町にある無限庵は、もと、尾小屋鉱山などを経営していた(　　)が金沢市高岡町の自邸内に建てた書院である。
①小倉正恒　②竹内明太郎　③横山　章　④石黒作次郎

42　正調山中節は、(　　)年に初代米八がレコードを出し、これによって全国的に知られるようになった。
①明治38　②大正5　③昭和2　③昭和23

43　菅生石部神社の天神講の際に、氏子の少年たちによって奉納される「蝶の舞」は、
(　　)の舞・鈴の舞・蝶の舞の3種の舞を総称したものである。
①扇　②天　③炎　④星

44　山中温泉荒谷町の石川県内水面水産センターには、国の天然記念物となっている、全長約(　　)cmの日本でも最大級のオオサンショウウオがいる。
①106　②118　③120　④135

産業

45　当地では大聖寺を中心に絹織物の生産が盛んであったが、これは、もともと
(　　)村の餅屋、京屋、沢屋などが大聖寺に広めたものと伝えられている。
①庄　②橋立　③山代　④動橋

46　現在の「加賀九谷陶磁器協同組合」は、明治15年に(　　)を会長として発足した「江沼郡九谷陶画工同盟会」が前身となっている。
①竹内吟秋　②浅井一毫　③飛鳥井清　④北出塔次郎

47　加賀商工会議所が設立されたのは昭和44年のことであるが、その起源ともいえる
(　　)が明治13年に石川嶂を会頭として設立されたことが記録に残されている。
①大聖寺商法会議所　②大聖寺商工会議所　③江沼商工会議所　④江沼商工会

人物

48　蓮如の4男(　　)は、文明年間、山田光教寺に入り、若松本泉寺、波佐谷松岡寺とともに「加州三ヶ寺」として一向宗を指導した。
①蓮悟　②蓮誓　③蓮綱　④蓮淳

49　加賀藩御抱絵師佐々木泉景が描いた「紙本金地着色鹿図屏風」は大聖寺の(　　)が所蔵する泉景の代表作の一つである。
①全昌寺　②実性院　③菅生石部神社　④江沼神社

50　松尾芭蕉は、山中温泉の泉屋で逗留した際、当主久米之助(くめのすけ)に「桃妖」の号(ごう)を与えているが、これは芭蕉の俳号である(　　)の一字をとってつけたといわれている。
①桃青　②桃水　③青妖　④水妖

51　小塩辻村の十村である初代鹿野小四郎は、宝永6年(1709)に大聖寺藩の農業技術書

ともいうべき(　　)を著した。
①農業全書　②農業要集　③耕稼春秋　④農事遺書

52　加賀の4大北前船主の中の一人(　　)は、明治期、函館に拠点を移し、いち早く北洋漁業に転身し大正初期には千島で定置網を成功させた。
①大家七平　②広海二三郎　③久保彦兵衛　④西出孫左衛門

53　大聖寺藩の九代藩主前田利之は、天保初年、藩士の宮永嘉告・小塚秀得などに命じ、総合地誌である(　　)を編纂した。
①江沼郡雑記　②加賀江沼志稿　③藩国見聞録　④江沼地理志稿

54　幕末の大聖寺出身の医学者竹内玄同は、長崎で(　　)からオランダ医学を学び、将軍徳川家茂が病気となった際、蘭方医師団の責任者となり、将軍の脈をとった。
①緒方洪庵　②華岡青洲　③シーボルト　④ベルツ

55　明治2年に日本で最初に琵琶湖に、蒸気船(　　)を就航させたのは、大聖寺藩士の石川嶂である。
①大聖寺丸　②加賀丸　③一番丸　④日の出丸

56　大聖寺の九谷焼作家(　　)は、明治時代、陶芸職人を養成する維新舎や九谷陶器会社を設立し、その総支配人となった。
①飯田屋八郎衛門　②浅井一毫　③竹内吟秋　④須田菁華

57　大聖寺出身の憲法学者上杉慎吉は、天皇機関説の(　　)と激しい論争を繰り広げた。
①穂積八束　②美濃部達吉　③筧　克彦　④宮澤俊義

58　大聖寺耳聞山町出身の医学博士桂田富士郎は、(　　)の研究で世界的に高く評価された。
①結核菌　②脚気(かっけ)　③脳波　④寄生虫

59　加賀市出身の世界的な科学者中谷宇吉郎博士は、動物の(　　)の毛を使って、人工雪の結晶をつくることに成功した。
①兎　②猫　③犬　④狸

60　加賀市出身の作家、深田久弥は、昭和46年に(　　)を登山中に、脳卒中で亡くなった。
①茅ヶ岳　②槍ヶ岳　③八ヶ岳　④白馬岳

解答

【初級編】

1　④850
2　④狐山
3　③法皇山
4　④大聖寺
5　②斎藤実盛
6　④蓮如
7　④溝口秀勝
8　②山口玄蕃
9　④実性院
10　①錦城小学校
11　④長流亭
12　①橋立
13　③山中
14　③錦城山
15　②みのむし
16　③鉛筆
17　①リム
18　②車夫
19　④八十四
20　②306
21　②13度
22　①大日山
23　②38
24　①ラムサール
25　③鹿島の森
26　③蚊帳
27　④加賀神明宮
28　③こいこい
29　③柿
30　②りくつな
31　②金明竹
32　②栢野
33　②国指定
34　③明覚
35　④坂網
36　③山田宗美
37　②本善寺
38　④全昌寺
39　④53
40　④大田錦城
41　①ブロッコリー
42　②カボチャ
43　③打越
44　④ゆげ
45　③宇谷町
46　①別所町
47　②前田利常
48　②14代
49　②東方芝山
50　②竹田儀一
51　①瓜生外吉
52　④塩屋町
53　①辻　政信
54　②梅田五月
55　②雪・氷
56　②織物会社
57　②野球
58　④柿沢理平
59　③金沢市
60　②截金工芸

【上級編】

1　③13,000
2　③弥生
3　③大聖寺畑町
4　③朝倉
5　①藤原為房
6　②北野天満宮
7　③潮津
8　①願成寺
9　①4万4千
10　③天徳院
11　①宗英寺
12　③5代利道
13　②明智光秀
14　②大和柳本
15　③目付
16　④397
17　③紙屋谷
18　④72
19　②18
20　①金沢県
21　④片谷
22　②森　仁平
23　③津田三蔵
24　①明治44年
25　②沖積
26　④5.4
27　④九谷地区
28　①オオムラサキ
29　①センチャ
30　②350
31　①オオナムチノカミ
32　②キシズ
33　①薄情な
34　②動橋川
35　②玄室
36　②太平記
37　②慈光院
38　③徳川秀忠
39　④宗寿寺
40　④桟瓦
41　③横山　章
42　③昭和2
43　①扇
44　④135
45　①庄
46　③飛鳥井清
47　①大聖寺商法会議所
48　②蓮誓
49　②実性院
50　①桃青
51　④農事遺書
52　④西出孫左衛門
53　②加賀江沼志稿
54　③シーボルト
55　③一番丸
56　③竹内吟秋
57　②美濃部達吉
58　④寄生虫
59　①兎
60　①茅ヶ岳

加賀ふるさと検定テキスト

加賀市歴史文化学習帳Ⅳ　地図・年表・模擬テスト編

［発　行］平成 26 年 11 月 20 日

［編集・発行］加賀市文化財総合活用事業実行委員会

加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会

加賀市大聖寺菅生ロ 17 の 3　加賀商工会議所内（〒922-8650）

TEL.0761-73-0001　FAX.0761-73-4599

［印　刷］有限会社たけうち印刷

KAGA

加賀市文化財総合活用事業実行委員会
加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会